

## 第6回徳山ダムの弾力的な運用検討会 議事要旨（案）

日 時：平成28年2月29日（月）13:30～15:30

場 所：（独）水資源機構中部支社 4F 会議室

### 1. 開会

2. 開会挨拶（中部地方整備局 河川部 河川保全管理官）

3. 第5回徳山ダム弾力的な運用検討会 議事要旨の確認

4. 規約の確認

### 5. 議事

（1） 徳山ダムの管理運用状況と平成27年度の弾力的な運用の概要

（2） 徳山ダムの弾力的な運用の試行について

① 弾力的な運用の試行（中間報告）

② 今後の弾力的な試験運用計画（案）

- ・ 各種魚道や降下仔アユの支援として流達時間の観点から整理する場合、アユの漁場などの位置がわかれば、アユの生育に関する効果検討もできるので、検討するうえでバックグラウンドとなるデータの把握が必要である。
- ・ アユの遡上や降下仔アユの把握は大変な作業量となる。データが取得できても簡単に評価できないと考えられる。検討できる項目とできない項目を分類する必要がある。
- ・ 自然界では大きな流量変動が存在するので、増量放流したときの説明だけでは評価が難しい。
- ・ どのような状況下において増量放流の試行を行ったのかを整理が必要である。また、どのような河川流況の中で増量放流を試行したのか位置づけを整理していくことが必要である。
- ・ 水温変化は放流時期の違いによる変動もあるので、放流時期を踏まえた整理が必要である。
- ・ 付着藻類は場所と時間によってデータが大きく変動するので、平均値だけでなく標準偏差とかばらつき程度も考慮して検討する必要がある。
- ・ 河川全域の水温変化の影響において、明確な水温低下は見られなかったと評価しているが、微妙な水温変化も出ているので、検討にあたっては考慮する必要がある。
- ・ 水質改善の促進について、徳山ダム放流量と坂内川流入量のデータだけで見ている

と坂内川の流入量が無視できないことも考えられる。これらの観点を踏まえた希釈効果の分析が必要である。

- ・ 増量放流は漁協関係者に配慮して、上流から下流までの関係者に対してあまり影響の生じない時期に限って実施してきたが、関係者が問題を認識した場合、増量放流が実施できるように今後は調整が必要となるのではないか。

6. 閉会挨拶（水資源機構中部支社 副支社長）

7. 閉会